

ドームテントの取り扱い方



ドームテントの設置方法

1. テントを広げる

まず地面にテントを広げます。テントの角を風上に向け、立ち上げた後に風の抵抗を軽くできるように置きます。さらにポールが通りやすいように、テントのシワを伸ばしてスリーブのねじれなどを修正しておきます。



ポイント【ドアパネルは全開に】

ドアパネルが開ままだとテントが膨らまず、負荷のかかったポールが損傷する原因にもなります。空気が入りやすいようにドアパネルは大きく開けましょう

2. ポールをスリーブにとおす

ポールをジョイントしたら、スリーブに通しましょう。ポールはあくまで押し、反対側から強くひっぱったりしないようにしましょう。ひっぱると、ポールが外れて中のショックコードが切れてしまう可能性があります。スリーブをひっぱりながらポールを推すのが、コツです。



3. テントを立ち上げる

ポールを通したら、ピンやグロメットで全てのポールの片側を固定します。固定し終わったら片手でスリーブをぴっぱりながら、グイッとポールをたわませてテントを立ち上げ、ポールのもう片方をピンやグロメットで固定します。一人でもできますが、2人ならよりスムーズです。



4. テントをペグで固定する

2人以上でテントを持ち上げて移動し、最終的な位置決めをします。位置が決まったらペグダウンし、テントを固定しましょう。ペグダウンはボトムがピンと伸びるように張り、写真のように対角の順番で打ち込んでいきます。



5. フライシートを取りつけて完成

フライシートの向きをテントの出入口に合わせてから、かぶせます。テント高がある場合は風下から風上に向かってかぶせるとシートが風ではらみ、スムーズです。フライシートの前室はファスナーを閉じた状態で固定します。開いた状態で固定すると、ファスナーが閉まらない場合があります。



テント設置のコツ

①フライシートは、しっかりと張る。

インナーテントとフライシートがくっついていると、結露でインナーテントが濡れ、時には隅に置いた服などを濡らしてしまう場合があります。フライシートは、インナーテントとの間で通気ができるようにしっかりと張りましょう。



②グラウンドシートは、小さめに。

地面からの湿気を防ぐために、工事用シートなどをテントの下に敷くのは有効です。その際は、テントサイズより一回り小さいサイズにしましょう。大きいと水滴などが流れこみ、結局テントの底を濡らしてしまうことになるからです。



③快適なフロアリング。

面からの冷えを効率よく防ぐのが基本です。まずはインナーマットや銀マットを一番下に敷きます。その上に個人用のマットを敷き、その上に寝袋を敷くのが基本です。



ドームテントの収納方法

1. テントを干します

軽く叩いて汚れを落とし、まずフライシートを外し、次にテントのペグを抜きます。抜き終わったらテントを倒してボトムを干しましょう。フライシートも干して内側の湿気を取りのぞきます。理想は風通しのいい場所で陰干しです。干す場合、テントが風に飛ばされないように、ペグダウンしておくことを忘れずに。



2. フライシートをたたみます

フライシートが乾いたら畳みましょう。フライシートは立体縫製なのでぴったりとは畳めませんが、できるだけ四角く畳んでいくのがポイントです。



前室部分を折って長方形にします。



中心に向かって、さらに両側を内側へ折り込みます



テント収納袋の長さに合わせて、もう一度折ります



シートの天井側から下に向かって空気をぬきます

3. テントをたたみます

テントが乾いたら畳みましょう。ポールを抜くときは、設営の時と同様に押し抜きます。またドアパネルは大きく開けて、中の空気が外へ抜けやすいようにしましょう。ポールを抜いたらテントの天井部分をひっぱってシワを伸ばしながら、点線の付近で折り曲げます。ドアパネルは全部閉めず、下部だけを開けておきます。



と同様の手順で残りの3面も畳み込みます



最終的に、二重のじゃばらになります



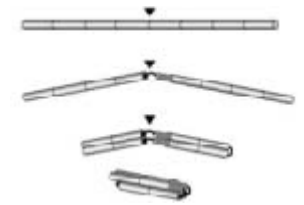
両サイドを内側に折りこんだ後、さらに収納袋の長さに合わせて折りこみます



ポイント[空気を逃がす畳み方]
下部を開けたドアパネルを塞がないように畳むのがポイントです。ポールで巻き上げる際、開けた部分からテント内の空気が排出され、コンパクトに巻き上げられるからです。

4. ポールをたたみます

ポールは、乾いた布でよく拭いてから畳みましょう。端から折るのではなく、センターから折り畳みます。端から折ると中のショックコードが片側にひっぱられ、断線する可能性があるからです。



5. ポールを軸にしてフライシートを巻き上げます

ポールをケースに入れたら、まずフライシートを巻き上げます。中の空気が抜けるように、上から下へ巻きます。次に巻き上がったフライシートを軸に、テントを巻きあげます。この時も中の空気が抜けるように、ドアパネルに向かって巻きます。



◆ポイント [入れるのではなく被せる]

巻き上げたテントは、ケースに入れるのではなく、ケースを被せるようにすると形崩れしないでスムーズに収納できます。ペグやロープを入れるスペースも十分確保できるはずです

「A型テント設営のポイント」

メモ

1 2 3 3 3 2 1
1 2 3 3 3 2 1

1 2 3の順番で
ペグを打つ

一直線にはる
フライも同様順番に張る
テントとフライの接触に注意
間を開けなければフライの
意味がない

テント
グラウンドシート

45~60°
支柱の長さ

90° 50~60°

対角線にはる

1 3
4 2

A型テントの収納ポイント

三角を中に折り込む

三つ折り

左右から巻いていく

ポール
ペグ
テント
グラウンドシート

巻き込む時汚れの
付着に注意